
とある偽善の風紀委員長

クズ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある偽善の風紀委員長

【Nコード】

N3419Z

【作者名】

クス

【あらすじ】

僕は自分が正義だとは思わない。かと言って悪だとも思っていない。正義の味方ではないし、悪の大王という訳でもない。僕はただ皆に感謝されたいだけの偽善者。

それが、”肩書きだけの正義”である僕だよ

ブログ 偽善者（前書き）

皆さん、初めまして、もしくはこんにちは

にじファンのリアルで親しい作者様から頂いた
設定を下に連載を始めました

過負荷サイドではなく科学サイドを書きたかった故の
気分転換のような小説ですが、どうぞ

プロローグ 偽善者

真夜中の路地裏

光は一切差し込まず、歩道に設置されている
街灯すら届かないような漆黒の空間

暗黒の道を、一人の少年が逃げ惑うように走っていた
後ろにはそれを追いかける人影

手にはナイフを持っているその人物は、
ただただ逃げる少年を追いかける

どういふ状況かと言うと、少年は狙われていた

所謂通り魔

無差別に人を殺す、話題性しか求めていない殺人鬼

そんな人物から必死に放念は逃げていた

角を曲がれば公園を駆け抜け、フェンスを登れば橋を渡る

ありとあらゆる場所へと逃げるが、一向に殺人鬼が
諦める気配は無い

体力も徐々に少なくなっていく

そんな中、少年には一つのアイデアが浮かんだ

「どこかのコンビニに行けば…！」

通常、二十四時間開いている場所の多いコンビニ

つまり、そこには人が、従業員が居る

そこでなら助けを求めることも、身を隠すことも出来る

そう考えた少年は、自分の知っている一番近い
コンビニへと全力疾走し始めた

そして、とうとう目当ての場所へとたどり着く

明かりも着いており、中には床を洗う従業員の姿が見える

希望の光、命の安全

そう感じた少年は、真っ直ぐコンビニへと走ろうとする

その刹那

「ひっ!？」

とてつもない握力で肩を掴まれた

恐る恐る後ろを振り返る

「う、うわあああ!!!」

真後ろには、帽子を被りナイフを持っている通り魔

その姿に叫び声を上げる少年だが、それも
虚しく地面へと押し倒される

体格からすれば大学生ほどの男に乗られた少年は
身動きがまったく取れない

腕も足の間に挟まれ動かせない

絶体絶命というピンチの中、男は徐々に腕を振り上げる

観念した少年だが、そこであることに気付いた

男の後ろから、別の人間がこちらに向かって歩いてくることに
少年は気付いた

無意識に少年は叫び始める

「た、助けてください!」

その声が届いたのか、その人影は
直ぐ真横で立ち止まった

パーカーこそ着ているが、制服を着ている所から
学生らしいその人影はただただ少年を見詰めている

「助けてください！ 殺されます！」

そう悲願する

すると、少年は目を見開いた

その人影は少年に見向きもせず歩き去っていった

そのままその人影はコンビニへと入っていく

希望の光から絶望の闇へと墮とされた少年の表情は、最早形容できるようなものではなかった

「ぎゃあああああ！！！！！！！！！」

男は少年の腹にナイフを突き刺した

それを止めるものはなにも無く、無抵抗に刃は腹へと突き刺される

痛みで少年は声を上げた

すぐさま男は少年の腹部からナイフを取り出す

そこからは血が滝のように流れ、少年の着ている制服は赤く染まっっていく

「がアアア！！ ぎゃあああ！！！！！！！！」

その後も、何度も男はナイフを振り下ろした

何度も、何度も、何度も

「痛え…痛えよ…」

声すら上げられなくなっている少年

全身を何度もナイフで刺され、周りは
血の海と化している

そんな中、ガサガサとビニールの揺れる音が聞える

何かと思い、朦朧とする意識の中その方向へと視線を向けた

再び立ち止まり、二人を見詰めているのは、先ほどの人影

レジ袋を腕へ通し、フードを被ったその人物

それは真っ直ぐこの現場を目視している

「頼む…助けて…くれ…」

最後の悲願

僅かな希望を胸に、そう問いかけた

「やだよ。めんどくさいし」

そう即答する人影

最後の最後で希望を潰された少年の意識は、
そこで永遠に途切れた

そこに残ったのは、全身を刃物で刺され、
最後に首を貫かれている死体

血の海に沈んでいる少年とそれを起こした犯人

犯人は殺したのを確認すると、立ち上がる

その瞬間

「！！！」

犯人の思考が停止した

目の前には現場を目撃した学生

勿論、それを見過ごさせるはずが無くこの少年同様に
殺そうとする犯人だが、身体に力が入らなくなっている

男の額から流れ出ているのは、赤い液体

その目の前には、何処からか取り出した銃口を向けている学生

「ゴメン、敵討ちだよ」

あっけらかんに、気楽にそう学生は言う

ドサッと男の身体は地面に倒れた

この場に現れたのは二つの死体

だが、その学生はそれにまったく動揺していない

「ほら、仇を討ってあげたよ？ 感謝してよね」

懐へと銃を仕舞う学生

そのポケットからは、緑色の腕章がはみ出していた

プロローグ 偽善者（後書き）

初っ端から二人の死者を出してる（笑）

この小説、この先大丈夫だろうか…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3419z/>

とある偽善の風紀委員長

2011年12月11日19時50分発行